

第286回 益田掃除に学ぶ会 お掃除通信

開催場所 益田東中学校 校長 倉橋 宏明

参加者数 9名 教頭

1、代表世話人挨拶 山崎純
コロナ禍のなかでこうして集まって掃除をしていいものかと考え
ますが、綺麗にできることが良いことだと思ひ、掃除を続けております
東中学校は自分の母校です。この高いところから益田を見下ろすと
町全体を気持ちよく見ることが出来ます。今日も又、明日子供さん達が
トイレを使って綺麗になったと感じて喜んでもらえるように頑張りますよう
2、体験感想発表
・大谷 宏明さん(益田市・タイピック)
多分3年振りかと思いますが、長男の送迎も今年からなくなり、又
息子もこの学校にお世話になっていることもあり、今日は参加させて
頂きました。こうして美味しいおむすびと味噌汁を食べるとやっぱり
掃除の会は良いなーと感じております
・森 直雄さん(益田市・キューサイファーム島根)
今日は女子トイレでしたが、便器は綺麗で特にはありませんでしたが
壁やドア等の周辺の埃が相当なもので、それを綺麗にするのが
大変でしたが、それもまた新しい気付きを沢山頂きました
・中部 尚樹さん(浜田市・キヌヤ)
今日は男子トイレを掃除しました。小便器を担当しましたが汚れは
比較的早めに落ちましたが、便器の形が一つだけ違った形をしており
深いので手が入らずにその部分に苦労しました。床も乾式で掃除は
しなくていいかと思いつつ、どなたかが掃除をされていたので
床も綺麗に拭きました
・山崎 純さん(益田市・キヌヤ)
今日は小便器を担当しましたが綺麗になりました。むしろ手洗いの
流しが汚れていて大変でした。グラウンドに近いこともあって風が吹くと
グラウンドの砂やほこりが入って来るのだろうと思います。それにしても
水を流せないというのは少し達成感が無い気がしますね

2、体験感想発表
・松崎 純次さん(益田市・キヌヤ)
便器は入口のトイレだったので結構汚れていました。七割方取れたと思いますが
便器宇傷があるのかよく分かりませんが、線が残ります。床も結構汚れていて
我が家の床も同じ状態なので改めて帰って掃除をしたいと思ひます
・岡本 勇太さん(浜田市・キヌヤ)
今日は女子トイレの担当でした。便器は綺麗でしたが壁、床の汚れはひどく
普段便器の掃除はされても壁、床等は掃除をされていないのではと思ひます
・倉橋 宏明さん(東中学校校長)
この学校で3年目になります。昨年からコロナの影響で延び延びになっていましたが
やっと今日皆さんに来て頂くことができました。生徒は通常の生活にぼつています。
今日は少しだけ参加させて頂き、あとは大変お世話になりますが宜しくお願いします
2020年度会計報告
<収入の部>
会費 46,100
カンパ 4,500
道具セット販売 2,000
昨年繰越金 104,097
小計 156,697
<支出の部>
むすび、お茶、味噌汁等 32,268
紙コップ等日用品 7,345
検温計他 7,163
日本を美しくする会会費 20,203
小計 66,979
21年度繰越金 89,718

4、鎌山秀三郎相談役 一日一語より抜粋
学校の掃除
各地の「掃除に学ぶ会」では、主に学校のトイレ掃除を行っています。
発足当時は、会場として受け入れて下さる学校がほとんどなく、会場探しに苦労しました。
ところが現在では、会場として提供して下さる学校が増えて、待っていただくまでになりました。
学校によっては、卒業する生徒が自主的に掃除を取り入れるところまであります。
涙定量、汗無限
耐え難いことや忍び難いことに遭遇した時、大きな心の支えになったのが高校時代の恩師に
教えて頂いた「涙定量、汗無限」という言葉です。一生のうち、流す涙の量は決まっている。
だとするならば、辛い涙は出来るだけ若いうちに流しておけ。一方、汗は生きている以上、
流し続けるものだ。流せば流すだけいぞ、と言う教えです。
5、森信三先生の教え 一語千鈞より
所照の自覚
・この地上には、いっさい偶然というべきものはない。外側から見えるものと、ひと度その内面に
立ち入って見れば、ことごとく絶対必然ということが分かる。
・いかに痛苦な人生であろうとも、「生」を与えられたということほど大なる恩恵はこの地上にはない。
そしてこの点をハッキリ知らずのが、真の宗教というものであろう。
・道元の高さにも到り得ず、親鸞の深さにも到り得ぬ身には、道元のように「仏になれ」とも言わず
また親鸞のように「地極一定の身」ともいわず、ただ「人間に生まれた以上は人らしき人になれよ」と
教えられた葛城の慈雲尊者の、まどかなる大慈悲信心の前に、心から頭が下がるのです。
6・平澤 興先生語録より
平澤 興 一日一言より
・習うという字は、元来ひな鳥がしきりに羽を動かし、親鳥の真似をして飛ぼうとすることだそうで、習うとはただ
頭だけでわかったつもりになることではなく、それには実行が伴っているのである。
何事も習慣的に知らぬ間にやれるようになってこそ、はじめてほんとうにそれが身についたと言われるので
このからだにつくまでは真に分かったとは言われぬのではなからうか
・人は単に年をとるだけはいけない。どこまでも成長しなければならぬ